

衣服のサステナブル経営

西村ゼミ M3R6114 そうご

2019年9月11日

目次

1. 衣類の廃棄問題
2. 現在のアパレル業界
3. 日本におけるアパレル産業
4. 世界から見た日本の衣服需要
5. 日本のリサイクル技術
6. エシカルファッション
7. まとめ

1,衣類の廃棄問題

八割以上の衣料の原料は石油から由来するプラスチックの一種であり、土に還らず、土と水に対してのダメージが計り知れないです。

全て衣服を燃やすのですが、燃やした分だけダイオキシンなどの有害ガスが出ます。製造から販売、消費から廃棄に至るファッション・アパレル業界が排出するCo2の量は石油産業に次いで*第2位にもなっています。
< *2016年までは第三位 >

ファッションのコモディティ化、アパレルの大量在庫を前提とする商売や、ブランド価値棄損を回避するためのメーカーによる未使用品の焼却等、衣類の廃棄問題が世界的に顕在化しつつある。資源の浪費や環境への悪影響等が懸念され、海外では解決に向けた法制化や業界の取組が見られる。

*根拠曖昧<https://hushtug.net/note/secret-trush/>

* Alex James: Slowing Down Fast Fashionより

提供画像元：[CNBC](#)



2,現在のアパレル業界

ファストファッションとは90年代にファッションショーを真似て流行を取り入れて安く早く提供したことにはじまる。

流行のサイクルがシーズンから月ごと、週ごとにと短くなり需要が増加し品質が落ちた。小売業者は安い素材と安い労働力で安くて速い衣料の製造方法を求め結果的に倫理観を失ってしまった。衣料を大切にするという価値観が損なわれ使い捨ての衣類の文化が生まれた。

¹世界の繊維の最終需要は、1990年に比べ約2.3倍に増加。また、一人当たり需要量も約1.6倍に増加。世界のアパレル市場は、2025年までに年平均3.6%※での成長が予測。世界的には、繊維産業は引き続き成長産業である。 ※実質ベース

世界的に繊維は需要が伸びています。

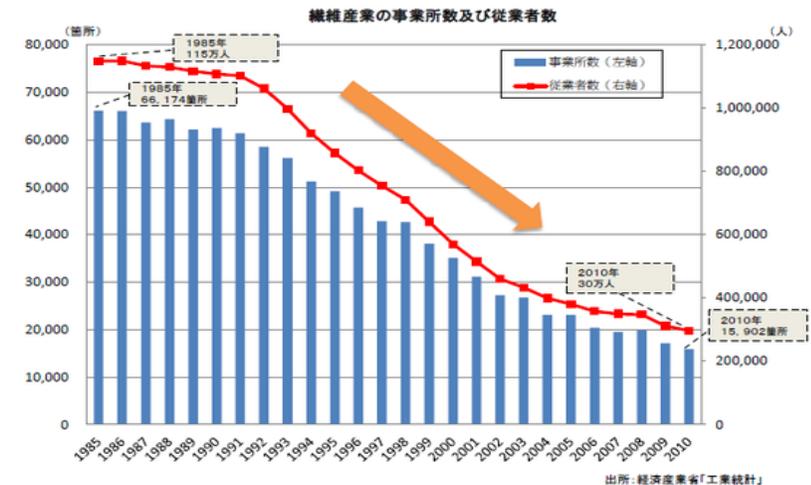
¹[繊維将来宣言より](#)

3,日本におけるアパレル産業

¹繊維産業の製造品出荷額は、90年代ピーク時の約4分の1まで減少している。国内のアパレル市場規模は、バブル期の15兆円から10兆円程度に減少する一方、供給量は20億点から40億点程度へと、ほぼ倍増。衣料品の輸入浸透度は97%※まで上昇している。※数量ベース

25年間で工場の数と従業員の数は約4分の1にまで減少しています。日本の繊維工場で働く従業員は職を失い、安さを重視した海外産の衣服を着回すことで、環境を汚染し続けるという最悪の状況になりつつあるのです。

¹繊維業界においては商取引慣行に係る問題が存在。自主行動計画等に基づき、業界全体の問題として、取引の適正化と付加価値の向上に向けた取組みを着実に進めていく必要がある。国内需要が縮小する中、海外展開を進めることは必要不可欠である。日本の繊維産業には、海外で評価されている。川上・川中の事業者であっても、個社レベルでブランディングし、直接海外の販路開拓を行っている取組も増えてきている。



¹[繊維将来宣言より](#)

4,世界から見た日本の衣服需要

：古着に着目。

日本の古着は世界中の輸出先でその品質が高く評価されており、そのニーズは年々高まっています。

しかしながら左記の画像のように日本では古着の回収があまり世界的な平均と比べ低くなっている。

この問題に対し古着の回収率を上げる取り組みもあり問題の認識を高めていけたらと考える。

榊原宿シカゴ

2019年度古着回収国の占める人口比率

研修資料

国・地域	人口(1,000人)	年度	6309輸出量(kg)	1人当り(kg)
世界	7,383,009			
アジア				
日本	127,095	2017	242,802,954	1.91
韓国	51,069	2017	323,343,668	6.33
シンガポール	3,772	2017	18,263,673	4.84
台湾	22,673	2018	42,986,436	1.90
香港	7,337	2018	17,243,372	2.35
中国	1,339,725	2017	225,355,437	0.17
アラブ首長国連邦	4,106	2016	59,123,100	14.40
北アメリカ				
アメリカ合衆国	308,746	2017	788,963,630	2.56
カナダ	35,152	2016	104,885,153	2.98
ヨーロッパ				
イギリス	63,380	2018	394,250,256	6.22
イタリア	59,434	2017	154,542,549	2.60
オーストリア	8,402	2017	37,479,081	4.46
オランダ	16,656	2017	185,809,101	11.16
ギリシャ	10,816	2018	5,620,213	0.52
スイス	8,035	2018	67,290,730	8.37
スウェーデン	9,483	2018	27,997,822	2.95
スペイン	46,816	2017	50,414,947	1.08
スロベキア	5,397	2017	18,332,303	3.40
チェコ	10,437	2018	3,278,372	0.31
デンマーク	5,561	2018	14,791,307	2.66
ドイツ	80,220	2017	512,893,034	6.39
ノルウェー	4,980	2017	32,706,576	6.57
ハンガリー	9,938	2017	45,239,173	4.55
フィンランド	5,375	2018	12,596,390	2.34
フランス	61,400	2017	155,176,818	2.53
ベルギー	11,001	2017	182,379,553	16.58
ポーランド	38,045	2017	179,070,687	4.71
ポルトガル	10,282	2018	20,513,456	2.00
リヒテンシュタイン	38		0	0.00
ルクセンブルグ	512		0	0.00
オセアニア				
オーストラリア	23,717	2017	95,486,715	4.03
ニュージーランド	4,353	2018	6,934,162	1.59
除中国	2,393,953		4,025,770,668	1.68
	1,054,228		3,800,415,231	3.60

人口出典 総務省統計局2019年発表「世界の統計2019」
 輸出量出典 国連統計局発表
 注：台湾輸出量は台湾財務省税関局発表資料より

回収国の輸出状況を人数で割ってみました。6309は全世界共通の古着の番号で、日本は1人あたり1.91 kgと他国に比べて大幅に少ないのが実状です。中国を除く世界平均でも3.60 kgですので、日本は遅れている感が否めません。

5,日本のリサイクル技術

ポリエステルリサイクル

衣料品に含まれるポリエステルを溶かし出して精製することで、もう一度原料であるポリエステル樹脂を製造する。ポリエステルだけを溶かし出すため、混紡されていたり、ボタンやファスナーが付属していたりする衣料品でもリサイクルすることができる。石油由来原料と同等の品質までリサイクル可能。

ポリエステル繊維にペットボトルのリサイクル繊維を使って製品化したさきがけした「パタゴニア」(アウトドア用品メーカー)のフリースなど。



6,エシカルファッション

エシカルファッションとは直訳して生産者・生産地に倫理的に配慮をしたファッションになります。基準として、下記の通りのような厳しいフォーラムがあります。

1. 衣料品を短いサイクルで大量生産する手法に対抗している
2. 公正な賃金、労働環境、労働者の権利を擁護している
3. 地球環境にやさしいサステイナブル（持続可能）な生活を支持している
4. 有毒な農薬や化学品の使用に対する問題提起をしている
5. エコフレンドリーな布や材料を使用・生産している
6. 水の使用を最低限に抑えている
7. リサイクルを行っており、エネルギーの効率化や無駄をなくす取り組みをしている
8. ファッション界におけるサステナビリティ（持続可能性）を促進・広める活動をしている
9. 資源を提供している、育成をおこなっている、そして／または問題提起をしている
10. 動物の権利を尊重している

これはSDGsにおけるファッション業界が抱える多くの課題を解決するものになります。

今後の調査課題

- 日本における繊維の廃棄量の推移などをもとに回収できていない衣服の現状を露わにしていく。
- 衣服のリサイクルにおける事例を多く集め素材ごとに代替え品となりうるかを調べる。
- エシカルファッションについての認識の強化とこれをアパレル業界に浸透していけるかどうかの摸索。

参考文献

⁶エシカルファッションとは？ <https://alphalog.jp/ethical-fashion/>

³アパレル・サプライチェーン研究会 報告書 2016年6月 経済産業省 製造産業局
繊維の将来宣言 令和元年7月 繊維の将来を考える会

³将来に向けた意欲的なチャレンジの事例

⁵繊維産業の課題と 経済産業省の取組 令和元年7月 経済産業省製造産業局生活製品課